

第34回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 令和5年8月29日（火） 18:00～19:50

【場所】 中央公民館 講義室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、
鹿ノ戸彩委員、小出恵委員、袖山尚委員、福原未来委員
町長：土屋町長、小池副町長、総合政策課長
オブザーバー：かるいざわ ざわざわ 2023 実行委員会 メンバー

内 容

【会長】

ご多用の中お集まりいただき、感謝申し上げます。

前回の会議は、体調不良により欠席し、誠に申し訳なかった。会議の内容は、議事録や副会長から報告いただいております、確認しています。

今回は、土屋町長、小池副町長、総合政策課長にもご臨席いただき、今後の風土フォーラムについて、町長から直接皆様にお話しいただけるとのことである。

また、議題(2)については、講師として【石塚徹氏】にお越しいただいている。

それでは、議題(1)の「今後の風土フォーラムについて」から始めさせていただきます。

○議題(1)「今後の風土フォーラムについて」

【町長】

日頃からまちづくりにご協力いただき、感謝申し上げます。

風土フォーラム基本会議への出席は初めてとなるが、本年の3月に、会長、副会長等とお会いし、私の考えをざっくりと申し上げたところである。そこから約半年が経ったため、改めて今後の風土フォーラムについて、今私が考えていることを申し上げたい。

資料をご覧いただきたい。

上部の絵だが、軽井沢の持続的発展のために、3本の柱に絞ってまちづくりに取り組んでいくことを示しているものである。1つ目の柱は、「環境先進都市をめざす」である。ゼロカーボンシティの関係や自然保護対策要綱の見直し、環境基本計画の整備、自然環境の保全再生や景観についてのことである。

2つ目の柱は、「文化的遺伝子の継承」である。明治以来積み重ねてきた軽井沢らしさや、先人が築いてきた文化をしっかりと継承して発展させていく中で、文化・芸術をまちづくりに編み込んでいきたい。それから、生涯教育の教育プログラムをより魅力ある形で行いたい。また、軽井沢には、多様な人材が集まり、そこから新しいものが生まれるという過去の歴史があるため、「人材を惹きつける軽井沢」を意識し、仕掛けづくりを行っていきたい。

3つ目の柱は、「保養地域の魅力アップ」である。あえて観光地という言葉を使用していない。より滞在型の保養地軽井沢としては「保養の魅力」がベースとなっているため、そこを重視して、魅力アップを図っていきたい。長期滞在に向けて、町民や別荘所有者の方が安心できるよう医療・防災を強化していく。また、町内だけで完結することなく、しなの鉄道沿線の自治体と協力して、広域的に滞在・保養してもらうために取り組んでいきたい。

3本柱に取り組んでいく中で、「人材」・「環境」・「意思」を掛け算し、新しい価値の創出を行いたい。また、そうした仕掛け・環境づくりを町として行っていきたい。

また、この3本柱を「守り」と「攻め」に分けて考えていきたい。

「守り」については自然環境の保全再生を中心に取り組んでいく。軽井沢の魅力度が上がると軽井沢に行きたいとか、住みたいという人が増えてくるため、環境保全と開発とのバランスが非常に重要であると考えている。また、軽井沢の魅力である町独自の文化は「守り」として、継承していきたい。ただし、「攻め」というものがないと持続的発展がないため、魅力アップと文化的創造については「攻め」の姿勢で新しい魅力・新しい価値を生み出していきたい。

風土フォーラムについて申し上げますと、今期は「ざわざわ」というテーマでさまざまな企画をされているが、「ざわざわ」というのは混沌の状態である。ただ、本当にバラバラな状態ではなく、形が作られる直前の、ある程度ルールに従って動いているものではあるが…。そうしたざわざわを「ワクワク」に移行させたい。軽井沢って美

しい、空気がおいしいとか、近年では特に美味しい食事もあり、文化スポーツ施設も充実しているため、軽井沢に来るときはワクワクしてほしい。

また、軽井沢に来られた方に長期滞在をしていただき、住んでいる方との交流の中で創発によって新しい価値が生まれるようなキッカケをつくっていきたい。こうしたキッカケづくりにおいて、行政は非常に大事な役割を担っているが、主役は住民であり、そうした仕組みづくりや仕掛けての定着化の役割を行政は担っていきたい。

さまざまなことを申し上げたが、ベースは軽井沢愛。非常にベタな表現だが、やはり軽井沢愛は昔から住んでいる方に限らず、移住された方にも軽井沢愛はあり、そうしたものを育て、それからブランドではない軽井沢力を使って出会いと交流の場の軽井沢を作り、新しい価値や新しいビジネス、新しい文化的な活動を創出していきたい。

これらを踏まえて、来年度以降は「まちづくり推進協議会（仮称）」を中心に住民が主役となって新しい軽井沢愛と軽井沢力を醸成する場、持続的発展のため新しい価値を見出して人を引きつける磁力を作っていきたい。自然発生的に、例えばダボス会議のようなものが軽井沢で生まれてくればと考えており、それを町が主導するのではなく、推進協議会が担っていくイメージである。風土フォーラムは、みなまちの選考も行っているわけだが、そうした役割も推進協議会に与えつつ、さらに各種団体との協働によるまちづくりを行っていけば、協議会自体の位置づけがより明確になるのではないかと考えている。繰り返しになるが、あくまでも主役である住民等が動けるようサポートを行政として行っていくイメージである。

ざっと申し上げたが、以上である。

【会長】

では、ご質問、ご意見等ある方はお願いします。

【副会長】

住民活動の支援は、みなまちサポートのことか。

【事務局】

みなまちサポートを想定している。

【副会長】

まちづくり基本条例は、廃止するのか。

【事務局】

廃止ではない。風土フォーラムについて規定されている部分を削除するということ。条例の一部改正である。

【副会長】

風土フォーラム基本会議は、まちづくり基本条例の改正プロセスで関わっていくということか。

【事務局】

改正案を示すので協議いただくようになる。

【副会長】

先ほど、「ざわざわ」を混沌の状態と表現されていた。「ワクワク」の下に「We must change to remain the same.」とあるが、変化を促すために、不安定な状態が作り出されることも一つの手法として考えられると思うが。

【町長】

詩的な表現で申し訳ないが、「ざわざわ」は、何かが生まれる直前のイメージだと理解している。そうした意味でざわざわからワクワクに移行させたい。

【副会長】

ざわざわを否定された感じがしたため、伺った。

【町長】

そのようなことではない。ざわざわがあるからこそワクワクが生まれるという認識である。

【A委員】

町はワクワクしているが、我々はずっとざわざわというのもありかと思う。

【町長】

ざわざわの中からワクワクが生まれるイメージである。

【副会長】

「ワクワク」というのは「ポジティブ」な思考で住民の行動変容を促すという点に共感した。企業や学校などあらゆるステークホルダーが集まってソリューションが生まれればよいと思う。ざわざわがそうしたモデルになっていければと思う。

住民のエンパワーメントを通して、町長がおっしゃる軽井沢力を高め、新しい価値を創出していくという形が実際にできると、住民自治の意識も醸成されていくのでは。

【A委員】

レイヤーがいろいろあるからこそ多様性があり面白い。ざわざわしている人が入り乱れる中で、ワクワクに観光や保養とかキーワードがついてきて、軽井沢愛が育まれていくイメージが持てればよいと思っている。この町のひとと企業等とそうしたことを一緒に作っていったら、と思っている。

【副会長】

【町内のさまざまな企業】などが協力してくれれば。

【町長】

つくり出すのは人である。素晴らしい人材が世界から軽井沢に集まるイメージ。そのためには教育などの環境も整えなければならない。物理的な壁がなくても軽井沢から世界をより良い方向に変えていくという志を持っている人を集めたい。

【副会長】

対話が生まれれば軽井沢の新しい価値が生まれる。

信州アーツカウンシルを参考とあるが、文化芸術活動に限らずまちづくり活動全般を対象とした助成事業を行うと捉えてよいか。

【副町長】

信州アーツカウンシルでやっているような仕組みを参考にしていきたいということである。おっしゃる通り文化芸術活動に限ったものではない。

【B委員】

今期の風土フォーラム基本会議で、次期のことを協議するのは少し違和感がある。ここでの話が次期への重しにならないか。

【町長】

今期の風土フォーラムを総括するに当たり、来期を意識する必要はない。ただ、次の構想を皆様に早めにお伝えした方がいいと思い、本日説明している。

【副会長】

来期の方向性を理解する必要があるため、このタイミングで致し方ないと思う。

【町長】

この構想は、今後更にバージョンアップするかもしれない。確定したものではない。

【会長】

ありがとうございました。

では、次の議題に移ります。

○議題(2) セミナー、意見交換会に向けて

(かるいざわ ざわざわ 2023 実行委員会 【メンバー】オブザーバー参加)

【会長】

前回の基本会議で、【石塚先生】のお話を芸術祭に活かしていきたいという話があったため、ここからはざわざわ実行委員会の皆様にもオブザーブをいただき、【石塚先生】のお話を拝聴したいと思う。

【石塚先生】 よろしくお願ひします。

~~~~~ 講話 講師【石塚徹氏】 ~~~~~

11月に開催予定のセミナーの講師ということで、お声かけいただいたが、私は何者なのかわからないまま進んではいけないと思いますので、お手元の資料に私の情報を記載したのでご覧ください。

私は、95年に軽井沢に来ました。現在、NPO法人生物多様性研究所あーすわーむの研究員です。万座自然情報館の館長も務めていましたが、今年からは顧問となっています。神奈川県出身で、90年に学校の教員になって、横浜に勤めましたが、私自身はずっと石川県で行っていた鳥の研究を続けたくて、スポンサーを探していたところ、たまたま軽井沢の企業だった、というのが、軽井沢へ来たいきさつです。

今は、「生きもの探求教室」という合宿を東京の学校に向けて実施したり、地球環境のために行動できる若者が育てばという思いから、万座でもエコツアーをやっています。

「軽井沢のホントの自然」を出版してから10年経ちますが、絶滅危惧種の一部は既になくなっていきます。因みに制作中の「軽井沢の鳥蝶花譜」という本では、あれから10年たった軽井沢の姿を写真でわかりやすく見てもらえるよう考えています。

軽井沢の話をする、軽井沢の南側の水田や休耕田には、絶滅危惧種が集中しています。軽井沢の森には、オリジナリティはほとんどありません。近隣の市町村も同じような森です。軽井沢のオリジナリティは、休耕田にしかない鳥・昆虫・魚、蛙などの草原性・湿原性の動植物です。他の市町村も同じように開発されているため、草原的な環境が残っているところは少なくなっています。「緑豊か」というと、森づくりだと皆さん考えますが、実はそうではなくて、草原を残すという取組みを行うことが、他の市町村との差別化や魅力づくりに繋がると考えています。全て森にするのではなく、人工林、自然林、疎林、湿地、草原、田畑があつて、いろいろな環境がモザイク状にあることが多様性を生むこととなります。整然と区画化すると住めない動物も出てくるため、全て森にしようというのは、いかがなものかと思ひます。

軽井沢には、8種類のカエルが存在します。8種類のカエルが全て生息しているのが南側エリアで、つまり、軽井沢の南側の方が多様な環境が残されていることがわかります。かつて、軽井沢駅の南側には広い大湿原が、その周辺には豊かな草原があり、そこには湿原や草原にしか住めないような草花、鳥がいました。ただ、その大湿

原が徐々にゴルフ場になり、湿原の生き物が生き場を失っていく中で、同じタイミングで発地の水田が減反政策などで休耕田化していき、よい草原に様変わりした発地に、大湿原にいた生き物が移り住むことができたという歴史があります。

草原といえば、オオジシギという草原性のシギで、オーストラリアで冬を越して、日本で繁殖する世界的な絶滅危惧種の鳥がいますが、かつては発地エリアに生息していました。しかし、だんだん減って2020年が最後の1羽でした。発地の生息エリアは、300メートル×2キロ程度の大きさがありますが、このような狭いところでは生き残れません。

軽井沢を代表するアサマシジミという蝶は、もう町内にほとんど生息していないかもしれません。アサマシジミは御代田町の天然記念物ですが、御代田町では既に絶滅しています。要するに、天然記念物にしても守れないものは守れないのです。名前だけつけて、めでたい感じがしても生息地がなかったらどうしようもないのです。花があればよいという問題ではなく、幼虫が食べる葉が決まっていますので、それがなくなったら生息できません。

一方、可哀そうですが、アライグマやニホンジカなどを人間は処分しています。命を奪うことで、環境を保全しているのです。殺してはダメ、切ってはダメというのは、愛護や主観的な感情であって、科学的で客観的な保全の考え方とはかみ合わないものです。

では、セミナーで何を私がお話ししたらよいか決める必要がありますので、皆様にアンケートを取りたいと思います。

**【アンケート集計結果（以下多数の選択があったもの）】**

○11月のセミナー（以降）への希望は？

- ・「自然とどう向き合うべきか、考え方を整理したい」
- ・「環境問題に対して先進的な町にしたい」

○素朴な疑問はありますか？

- ・「軽井沢の自然の固有性（オリジナリティ）は何ですか？」

○気になる話題はありますか？

- ・「軽井沢町環境基本計画＞生物多様性地域戦略の策定」



- ・「自然といえば森、という誤解」
- ・「8種類のカエルが告げること」

アンケート結果を整理して、セミナーでお話できるようにしておきます。

~~~~~以上~~~~~

【会長】

先生、ありがとうございました。

アンケートの結果を踏まえてセミナーのタイトルを検討する。最終的には一任していただきたい。

セミナーと意見交換会の日程だが、セミナーが11月3日（金）午前10時30分から12時まで、場所は中軽井沢図書館の多目的室にて行う。意見交換会は、11月23日（木）で、場所は中央公民館の講義室で行う。意見交換会は、芸術祭の最終日に当たるため、まだ時間は決めていない。後ほど【A座長】に相談の上、決定させていただく。

意見交換会の形式だが、基本的にはセミナーに来ていただいた方を対象に意見交換会を行いたいと思っている。ただ、どうしてもセミナーに来れない方は、セミナーの模様を動画撮影するので、それを見ていただいてから意見交換会に参加いただくという流れを想定している。意見交換会がどのような形式がよいのか皆様にご意見を伺いたい。模造紙や付箋を用いたワークショップ的な形がいいのか、それとも皆で輪になって、車座的な形でそれぞれ意見を出していただく形がいいのか。

【オブザーバー参加・A氏】

参加対象者は。

【会長】

一般の方である。あまり堅苦しい形でなく、気軽に来ていただけるよう考えているため、特に事前の申し込みなく、自由に来ていただきたい。

【A委員】

何歳くらいからの参加を想定しているのか。

【会長】

最終的には基本会議として提言書をまとめたいと思っているため、大人と会話ができる程度の子どもか保護者の方がフォローできるのであれば年齢制限も必要ないと考えている。

車座的だと意見が出にくいところがあるため、個人的にはいくつかのグループに分けて付箋でそれぞれの意見を出し合った上で、その後の基本会議の中でそれらの意見を基に話し合っ、提言書をまとめていきたい。

【A委員】

せっかく一般の方が来られるので意見を出しやすくしたい。

【会長】

何グループかに分けたとしても、【石塚先生】にはグループを回っていただくよう、考えている。

【B委員】

セミナーと意見交換会の関係は。

【会長】

いきなり意見交換会となると、それぞれ皆さんの考える自然環境というものが全く違う場合があるため、【石塚先生】の話聞いてた上で、前提知識を共有した状態で意見交換をしたいと考えた。そのため、先ほどの話に戻ってしまうが、基本的にはセミナーと意見交換会の両方を参加していただく。

【C委員】

形式についてだが、意見交換会で意見を聞くという大枠はありつつも、芸術祭との兼ね合いも含めて、アウトプットをどうするのか確認した方がよい。付箋で模造紙にまとめればよいのか、何か芸術的なアウトプットをしていくのかで変わってくる。

【A委員】

町で策定予定の環境基本計画に繋がるよう提言書をまとめていくのもよいのでは。

【会長】

環境基本計画の策定のタイミングもあるので、繋げるのは難しいかもしれないが、我々の提言書に対しては町としても何らかの対応をしていただけたらと思っている。

【A委員】

提言書は、まちづくり推進室宛てに提出か。

【事務局】

町宛てである。町宛てのため、全課が対象である。

【会長】

風土フォーラム基本会議自体が住民で構成されている団体のため、住民の一意見として、町に提出する。そのため、一般住民の方々も交えた意見交換会で幅広く意見を募って提言書をまとめていきたい。

【B委員】

意見交換会では、キーワードやテーマを絞っていかないとまとめるのが難しい。

【会長】

今回のアンケート結果を踏まえた上で、セミナー・意見交換会のテーマをいくつか考え、皆さんに伺う。

【B委員】

提言書は、アンケートにあるようなキーワードを集約していくようなイメージかと思う。

【A委員】

意見交換で時間を取られないために、愛護と科学の違いをしっかりと理解した上で対話した方がよい気がする。

【オブザーバー参加・A氏】

アウトプットとして、課題を出していくのか、課題の解決を考えるのかどちらなのか。

【会長】

提言書自体は、軽井沢町の自然環境がこうだったらいいのではないかというものを提言するようなイメージを持っている。

【オブザーバー参加・A氏】

例えば【石塚先生】のお話を聞いた上で、でも、科学的にはちょっと突拍子もない意見が出たときも拾ってもらえるのか。今まで、町として取り組まなかったことが出てきても、それが打開策になるなら取り入れることも可能なのか。

【会長】

さまざまなご意見も含めて皆さんでお話できればと思っている。

【オブザーバー参加・A氏】

難しいワークショップだと思う。

【会長】

そのため、大人数で話すわけではなく、小さなグループを作って話し合っていければよいと思う。

最終的なアウトプットがどういう形がいいのかを含めて委員の皆様にそれぞれ考えていただいて、アイデアがあったら連絡いただきたい。こちらでも、どういった形がいいのか考えて、委員の皆様に伺いたいと思う。

○議題(3) その他

【会長】

ざわざわ実行委員会から報告があればお願いします。

【A委員】

仮ではあるがチラシを持参した。QRコードから参加者を募集しているが、まだ数件の応募に留まっている。夏の繁忙期で皆さん反応ができなかったようなので、募集を後ろ倒しにする。パンフレット完成は、開催ぎりぎりになる見込み。ベンチプロジェクトなどの場所については、【各団体】は乗り気になっていただいております、あとは中軽井沢駅と軽井沢駅のスペースが決まってくれば、少しずつ町全体に広がっていくと思う。連携企画となる映画祭と佐久市のコスモホールのイベントと徐々に決まってきたが、公表はもう少し後になる状況。なお、映画祭は、軽井沢町中央公民館と上田映劇で行う予定。

中学生からの応募や、アーティストがカフェで展示するなど、ざわざわ始まってきている。皆さんも引き続きよろしく願います。

【会長】

ありがとうございます。本日の基本会議は、以上です。

お疲れ様でした。